

19/Nov.2012

遅い朝食を昼食を兼ねて、大衆食堂風の日本料理店で食する。とんかつセット 350円
その後、まちあるき。

- 12:50 市民文化センターを見る。
- 13:40 アメリカ系チェーン店のスウェンソンでアイスクリーム休憩。
- 15:11 国立博物館を見学
- 20:00 韓国焼き肉店で食事



←文化会館（国立）
中国支援の建設と言う。
巨大で何とも仰々しい



←アメリカのアイスクリームチェーン Swensenまで進出している。若い女性でにぎわっている。ピザ屋もある。



←ラオス国立博物館

建物はフランス植民地時代の政府建物として使われていたものと言う。内部は撮影禁止、荷物をロッカーに入れて観覧することとなる。一階は考古学的な出土品、古代のラオスが紹介されている。二階はフランス植民地時代から社会主義革命にいたる闘いの歴史が展示され、植民地軍の圧政、人権蹂躪、ベトナム戦争（secret war）での人民の闘いが当時の武器などで説明されている。従来「革命博物館」であったものが改装されたと言う。この時代の展示は前回のラオス旅行でみた「人民軍歴史博物館」と重複する内容である。さらに一階に下りると、各地方の産業・社会や生活が展示され、最後に現在のラオスの国際的位置が説明されている。グッズの販売もある。



←館を出ると巨木に彫刻されたものが展示。Tiar Kha Wood と言われる材である。Bolikhamsay 県の LAK Sao 村産出。XAYAVONG 将軍が寄贈したものだそうだ。直径2.8m、高さ4m。硬い木で、現在では大きな木が見つげ出されるのは希なことである。これを文化遺産として保存するため、ラオス国立芸術研究所によって彫刻されたものである。ラオスの歴史・文化・自然が表現されている。例えば、ラオスの舞踊、民族楽器の演奏、托鉢、

Pou Yer と Ya Yer（暗黒と寒さから救うために奉仕した Yer と呼ばれるおじいさん・おばあさんの伝説。現在でもラオスの人々から高い尊敬を受けている。）、遺産都市ルアンパバーンの新年を祝う行進、訪問者を歓迎するために小さな壺のホワイトリカーを飲んでいる姿、手作業で精米する様子、伝統的なラオスの住居・・・などである。

また、タートルアンの仏塔、ジャール平原、ワットポー寺院（ラオス第二の世界遺産）、マクムー仏塔（スイカに似せて形作られた仏塔）タートインワン仏塔などを彫刻家がイメージして表現した。さらに、美しく豊かなラオスの自然を彫刻している。・・・とのこと。



←今回の旅行にゆかりの皆さんで食事。ラオス人日本人が混在。韓国焼き肉が食せる店。韓国人経営。領収書もハングル。